



柔軟な発想で まちづくり

きたあきた子ども議会

きたあきた子ども議会が、8月6日に議事堂で開かれ、23人の子も議員がまちづくりに対する新たな提案をして、津谷市長の考えをただしました。子ども議会は、行政や市の課題に関心を持ち理解を深めるとともに、本市の教育課題である「問いを発する子ども」の育成と、ふるさとを愛し支える自覚と高い志をもつ子どもの育成などをねらいに開催されており、今回が3回目です。

事前研修で市の施策を学習し 議会に臨む

市内の小中学校から選ばれた子ども議員たちは、事前研修で議会の仕組みや議員の役割、市の主な施策・事業について学習し、議長団、ハッピータウングループ、地域活性化委員会、パワーアップスクールグループ、ハッピーライフグループに分かれ、質問書や資料などを作成して議会に臨みました。

この日は、市当局から通常の市議会と同様に、津谷市長、虻川副市長、三澤教育長を始め部長や担当課長が出席。議長団による開会宣言、経過説明に続き、提案された「きたあきた子ども議会宣言(案)」を全会一致で可決したあと、4つのグループの子も議員が8項目にわたり質問し、津谷市長が答弁しました。

防犯カメラを増やす

ハッピータウングループ

【質問】防犯カメラの数を増やすことで、安全なまちになるのでは。

【答弁】市民の安心・安全のため警察署なども相談しながら、より効果的な導入と運用について検討し、設置に向けての準備をしていきたい。なお、防犯カメラを設置することも、安心・安全なまちづくりのための有効な手段の一つですが、市民が一緒になって力を合わせて「北秋田市を安全なまちにしよう」という思いを持つことが何よりも大切だと考えている。

くまくま園にアクリルドーム

地域活性化委員会

【質問】くまくま園で熊が観れるようムの中から間近で熊が観れるよう

にしては。また、伊勢堂岱遺跡では、見学だけでなく体験も。

【答弁】水族館とは少し異なり、相手がヒグマなので安全上の問題で難しいと思われる。また、平成28年度にオープンする伊勢堂岱遺跡のガイダンス施設では、皆さんの提案を取り入れ、見学者が興味と関心を持てる内容となるよう工夫したい。

学校を選択制に

パワーアップスクールグループ

【質問】部活動や体験学習を充実させるために、行きたい小中学校を選択できるようにしたら。

【答弁】北秋田市では、希望する部活動のある学校でどうしても頑張りたいたい場合や、不登校を解消するためなど特別な理由がある場合に限り認めています。しかし、自由に選択できるようにすると、一部の学校に子どもが集まって他の学校がますます小規模になったり、遠距離の通学が多くなる、子どもの成長に必要な地域との繋がりが薄くなることなども予想されることから実施は考えていない。

空き家が持家となるように

ハッピーライフグループ

【質問】移り住むには、働く場所と住む場所が必要。空き家に長く住ん

だら、持家になるようにしてみても。

【答弁】空き家を活用するために空き家バンクという仕組みを作り、空き家の持ち主と家を借りたい人の仲立ちを市が行っていますので、この制度を利用して多くの人に北秋田市に移り住んでもらいたいと考えています。空き家を自分の持ち家にしたという方には、空き家を買うために必要なお金の一部を援助する仕組みもありますが、長く住んだら自分の持ち家になるようにするためには、新しく仕組みを作る必要があるのではないかと考えています。

貴重な経験になりました

子ども議員が抱負

閉会にあたり、議長団を務めた工藤遼さん(合川中3年)が「市の行政や議会の仕組みを学び、北秋田市の未来について考える機会として、私たちにとても貴重な経験になりました」と子ども議員を代表してあいさつしました。続いて、子ども議員が感想を発表し、最後に松尾秀一市議会議長が「当市が現在抱える懸案事項や要点をついた、たいへん良い質問でした」と講評しました。

傍聴席には、保護者や先生、市議会議員などが詰めかけ、子ども議員による議事進行や質問に熱い視線を注いでいました。